

「笠利中学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立笠利中学校

2 学年・人数

1年生から3年生（計33人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年～ 笠利中学校

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月10日（日）体育大会 笠利中学校上部校庭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

大笠利八月踊り（おおがさはちがつおどり）

(2) 由来

起源は定かではないが、按司の世（約700年前）からあったのではないかとされている。旧暦の8月を「新年」ととらえ、「アラセツ（新節）」「シバサシ（柴挿し）」「ドンガ（嫩芽）」といった新年の行事で踊られてきた八月踊り。豊かな実りに感謝し、来年の豊作を願う「祝付け」の踊りである。

(3) 構成等

男衆と女衆のそれぞれの「唄出し」と「太鼓（チヂン）」から輪を描く。太鼓（チヂン）を叩くのは、ほとんどが女衆。そのリズムに乗り、男女が島唄を交互に唄いながら八月踊りを踊る。テンポは、最初はゆっくり、だんだん早くなって、最後は手足がもつれるほどに盛り上がる。そして、八月踊りの最後は、六調（ろくちょう）で締めくくる。

5 保存会や地域との連携の具体

体育大会で発表の場を設定し、総合的な学習の時間（かさり学）で練習を行っている。輪番制で大笠利の3集落（城前田，里前，金久）が担当し、集落の方々の指導を受けている（来年度以降，保存会が立ち上がり，そちらから指導者を派遣してもらう予定）。体育大会では，生徒・職員・保護者・来賓・地域の方々が，みんなで輪になって踊った。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら八月踊りを伝承していくために，学校（担当）と地域（区長）の連絡を密に行っている。また，生徒たちは地域で行われる旧暦8月9～11日の「アラセツ（新節）」と15～17日の「シバサシ（柴挿し）」にも，生徒，職員が積極的に参加している。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【保護者】

- ・ 事前の練習時間がとれなかったにもかかわらず，生徒たちが八月踊りを踊りこなしていることに驚くとともに，しっかりと地域の文化が引き継がれていることに感心した。
- ・ 一体感があり，また，笠利地域の伝統芸能ということで，大事にしていきたい。
- ・ 八月踊り感動しました。これからも続けていけたらいいと思います。
- ・ 始まりと同時に来場者全員に呼びかけ，全員が踊りに参加できると思った。